

出張報告書

2020年9月29日

所 属	職 名	氏 名	
老年歯科補綴学講座	助教	太田 緑	
出張目的	補綴歯科および老年歯科臨床関連の研究および学生教育の調査		
出張地	スイス連邦ジュネーブ	時 期	2019年4月1日 出発 2020年8月31日 帰着
<u>報 告 事 項</u>			
<p>2019年4月1日から2020年8月31日まで、スイス連邦ジュネーブ大学歯学部補綴・高齢者分野のFrauke Müller教授の指導のもと、『入院高齢者における栄養と口腔機能の関連について』というテーマで研究を行った。ジュネーブ大学附属リハビリテーション病院に入院中の高齢者を対象に、血液学的指標や体組成分析に基づいた栄養状態の評価と、複合的な口腔機能評価を実施し、入院高齢者における栄養状態と口腔機能の関連を検討した。現在、研究成果をまとめており、Gerodontologyに投稿予定である。</p> <p>栄養状態の評価には体組成分析を用いて筋肉量や徐脂肪量を測定するが、ジュネーブ大学栄養学のLaurence Genton Graf教授のもと、車いすやベッド上での測定方法について修得した。また、ジュネーブ大学病院でどのように入院患者の栄養管理を行っているのか、管理栄養士から指導を受けた。</p> <p>出張期間中、ジュネーブ大学での学生教育プログラムについても調査を行った。スイス連邦では、歯学部5年間のうち、1、2年目はGeneral medicineを学び、3年目から歯科の専門教育が始まる。3年生の模型実習、4、5年生の臨床実習（担当患者の補綴治療）に参加し、日本の補綴治療との違いやプログラムの違いについて体感した。今後、東京歯科大学の3年および5年の教育プログラムの参考にしていきたい予定である。</p> <p>ジュネーブ大学歯学部補綴・高齢者分野には約20名の歯科医師が在籍していたが、純粋なスイス人は少なく国際色豊かであった。そのため、スイス連邦だけでなく各国の歯科治療や学生教育についても情報を得ることができた。お互いの情報交換の中で、日本のよい部分にも気がつくことができた。また、海外のよい部分を積極的に取り入れていくべきであると感じた。</p> <p>最後に、このような機会を与えていただきましたことを、関係各位ならびに井出吉信学長に厚く御礼申し上げます。</p>			